

JA ASAHIKAWA あさひかわ

2014
March
Vol. 74
JAあさひかわ
組合員
広報誌



JAあさひかわ戦隊 アグレんジャー

特集

第12回 総代会
基幹支所だより・旭正
明日を担う
理事会だより

アグレんジャーが日本農業
新聞に掲載されました。
詳しくは10ページに!



2014

5

JAあさひかわ Vol. 74 平成26年5月1日発行 編集発行あさひかわ農業協同組合 管理部総務課 印刷(株)エー・アイ・ピー 農文協

ご好評につき、さらにパワーアップして今年もやっちゃいます!!

2014

JAあさひかわ

定期積金

キャンペーン

お取扱期間：平成26年4月7日(月)～平成26年5月30日(金)

がっちり
貯めるんです

がっちりプラン1

今年はなんと!!



払込期間:3年未満

店頭表示利回りの

8倍

がっちりプラン2

さらにお得な!!



払込期間:3年以上

店頭表示利回りの

10倍

ご旅行やお子様の入学・進学費用、車の購入の準備資金や車検費用など
目的・用途に合わせて積立金額・期間をお選びいただけます。

対象商品	定期積金(定額式)
適用利回り	期間:3年未満 店頭表示利回りの8倍 期間:3年以上 店頭表示利回りの10倍
ご利用いただける方	個人および法人
ご契約期間	1年以上5年以下
払込金額	1回あたり5,000円以上1,000円単位
掛込方法	窓口持参扱いまたは口座振替

- ※ 定期積金の詳しい内容につきましては店頭で説明書をご用意しております。
- ※ 契約時の店頭表示利回りは窓口にてご確認ください。
- ※ 満期日以後の利息は解約日における所定の普通貯金利率により計算いたします。
- ※ 中途解約される場合は所定の解約率が適用されます。
- ※ 定期積金の払い込みが延滞した時は、満期日を延滞期間に相当する期間繰り延べます。

JA ASAHIKAWA
あさひかわ



JA ASAHIKAWA
あさひかわ

発行所 あさひかわ農業協同組合
管理部総務課
住所 旭川市豊岡4条1丁目274番地の2
電話 0166-31-0111 FAX 0166-31-1555
E-mail webmaster@ja-asahikawa.or.jp

第12回通常総代会 開催される



4月24日(木)、旭川グランドホテルにおいてJAあさひかわ第12回通常総代会が開催された。総代506名のうち448名(本人出席239名、代理出席14名、書面議決195名)の出席をいただいた。

午前10時の開会宣言後、出席者全員でJA綱領を朗唱。続いて、白鳥組合長より1年間の農業情勢や事業ごとの取り組みについての挨拶が行われた。来賓の祝辞では、石本一三旭川市農政部長、八尾谷仁鷹栖町副町長、近藤修一全国共済農業協同組合連合会北海道本部旭川支所長より御祝辞を頂いた。

その後、議長に北野地区の水島重夫氏、神居地区の開祥光氏の2名が選出され、議事日程に従って平成25年度の決算報告、平成25年度事業報告、剰余金処分案の承認を経て、平成26年度の事業計画、第5次農業農協中期3カ年計画を始めとした各議案、特別議決を必要とする定款の変更等について慎重審議を行い、結果、提案された議案の全てが採択された。

また、「TPP等国際貿易交渉から北海道を守り抜く」決議を採択し、北海道経済を守るため、今後も強力な運動を展開していくことを確認した。

組合長開会挨拶

JAあさひかわ 代表理事組合長 白鳥 隆志



本日は、あさひかわ農協第12回通常総代会のご案内を申し上げますところ、総代の皆様には春作業も始まり何かとお忙しい中多数ご出席戴きまして誠にありがとうございます。

また、旭川市、鷹栖町はじめ連合会、関係団体各位の皆様におかれましては時節柄何かとご多用の中ご臨席を賜りまして大変ありがとうございます。加えて常日頃より当農協の事業運営、事業推進に深いご理解とご支援、ご指導を頂いております事をこのように高い席からではありますが重ねて御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて平成25年を振り返り、国内外の情勢に目を向けますと日本経済は「アベノミクス」といわれる経済成長戦略の下で安倍政権は「フレ経済」という閉塞感打開に向けた政策が国民的期待を背景に高い支持率を保っております。しかし私共の立ち位置から見ると政府の諮問機関である産業競争力会議等の内容には多くの偏見があり、一握りの輸出をもくろむ巨大企業のみが恩恵を受けるだけの偏った政策に見えて仕方がありません。東京、大阪、名古屋等の大都市だけが元気になりその地域に人口が集中し、その反面地方経済が一層落ち込み、近い将来最低限のライフラインも確保できなくなる危険な政策であるように思われてなりません。

国際的には中東、シリアの不安定な情勢の中での原油エネルギー問題、クリミアの紛争から派生したウクライナの政情不安と経済危機、中国、韓国など近隣諸国との歴史認識をめぐる関係悪化といった多くの懸念材料があり波乱含みの様相を呈しております。

25年度の、地域農業を振り返りますと、一昨年に続き昨年も異常なほど雪解けが遅れ春作業になかなか取りかかれず、大いに気を揉んだ処でありましたが、4月下旬より急激な天候回復によりギリギリ間に合ったというのが実感でありました。

結果、水稲におきましては上川105の作況指数となり3年連続の豊作と言う事であり、低蛋白比率も例年より高く努力が報われた年となりました。他の畑作物も概ね平年並み、又はそれを上回る作柄でありましたが、蕎麦に関しては局地的な豪雨の影響もあり倒伏等により収量も少なく残念な結果となりました。また、青果物に於きましては春先の低温、日照不足、夏の高湿、秋の長雨と天候に恵まれず出荷量は減少致しましたがその分価格で何とか救われた状況になっております。

さくらんぼ、りんご等の果樹も冬場の凍害、夏場高温による生理障害等厳しい栽培環境となりました。酪農、畜産に於いては猛暑の影響もあり生乳生産量は減少しましたが、畜肉、鶏卵はおおむね高値で推移いたしました。

生産現場では組合員の高齢化も進む中ではありますが、後継就農者も大規模化を目指し力強く生産活動に励んでおり、国営及び道営事業による圃場整備を行政、関係機関と連携し推進して参りました。また食の安心、安全が求められている今日に於いて当農協として農畜産物生産におけるクリーン農業推進並びにポジティブリスト制施行に伴う農業使用基準の遵守や農業飛散防止等、これらの積極的な推進と管理体制構築、さらには消費者への情報発信と交流に取り組んでまいりました。また、年々増加する鳥獣被害に対しても行政とも連携する中で実態と課題を把握し今後の具体的な対応についても大きく前進いたしました。

信用事業は厳しい環境の中でありましたが、貯金は地域の皆様と共に歩む事業所としてご理解とご支持のもと事業展開をさせて頂き、更に11月から実施いたしました上川管内JA統一定期貯金キャンペーンは大きな反響があり計画を上回る事が出来ました。

貸出金は様々な要因がありますが計画未達となり地域のニーズに応えるには、創意工夫の余地があり今後の課題とさせて頂きます。共済事業に於きましては、積立終身一時払い廃止に伴う駆け込み需要の反動減もあり保障実績が伸びず厳しい結果となりました。今後3Q訪問活動を通じて地域の皆様に安心と満足をお届けすべく取り組みを強化して参ります。

新設部署、総合推進室「TAC」がありますが、組合員の皆様の「

意見、要望等お聞きする中でその活動に「期待を頂いているものと考えていますが、今後一層情報の提供をはじめ担い手の皆さん宅への訪問を通じてその役割を果たして参ります。

本年度の決算につきましては、施設の統廃合など経営改善計画に基づいた事業運営もあり当期剰余金1億1200万円、未処分剰余金に就いては1億7700万円となっております。また、冒頭に御礼申し上げるべき事でありましたが、組合員の皆様には当農協の自己資本造成計画に基づく出資増口のお願いに対し深いご理解とご協力を頂いておりますことに対し心からお礼と感謝を申し上げます。お蔭様で計画達成に向け順調に進んでいることをご報告させて頂き、引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成26年度、引き続き厳しい農業を取り巻く環境ではありますが、TPP問題は依然として参加国の合意が見られず、折しもオバマ大統領が国賓として来日中であり、今まさに首脳会談、午後から共同声明発表の予定となっております。どのような共同声明となるのか注目されるところであります。日米農産物の貿易交渉が最大の懸案事項となっており、日本が日本の農業、北海道の農業、経済として我々の暮らしを守るため食糧の安全保障も含め、安易な妥協の無い様に日本政府には、国会決議を守りしっかりと対応をお願いするところであります。

また、農林水産省は平成26年を「攻めの農林水産実行元年」と位置づけ、農地中間管理機構の設立による農地の集積、集約化、経営所得安定対策の見直し、生産調整を含む水田フル活用と米政策の見直し、日本型直接支払い制度の創設からなる4つの改革を進める事としています。更に政府は、農協組織が「農協組合員」に最大限の奉仕をする組合組織という農協法の理念を改めて想起し日本農業に於ける農協の位置づけ、事業、組織のあり方、今後の役割などについて検討を始め、これらが所謂農協改革と呼ばれているものであり近くそれが示される予定であります。

このような農業、農協に新たな変革の嵐が吹き荒れ様としている状況の中、当農協として本年26年を初年度とする「第5次農業、農協中期3カ年計画」を策定させて頂き本日皆様に提案させていただきます。「信頼と挑戦」をキーワードに、この計画の実践に取り組み着実に成果を上げ得るよう今後とも役員一丸となって地域に根ざした事業所として、地域に求められる事業所として組合員及び地域の皆さんの負託に誠実に応えて参りますのでご理解の上ご協力、またご指導の程宜しくお願い申し上げます。最後に、平成26年のこの年が皆様の生産に対する情熱と努力が報われる素晴らしい出来秋を迎えられますことを心から切望し、第12回通常総代会の開会にあたってのご挨拶とさせて頂きます。本日はどうぞ宜しくお願い申し上げます。

「TPP等国際貿易交渉から北海道を守り抜く」決議

TPP交渉については、本年2月に閣僚会合が開催されたが、多くの分野で各国の主張の隔たりが大きく、「大筋合意」には至らなかった。

しかしながら、米国から衆参両院の農林水産委員会における決議を逸脱した譲歩を強く迫られかねず、予断を許さない状況が続いている。

我々は、TPPは農業だけの問題ではなく、国民一人ひとりの暮らしや地域社会の将来に極めて大きな禍根を残す問題であり、国民的議論のないまま交渉を進めることは、決して国益にかなうものではないことを、引き続き広く道民・国民に訴えるとともに、TPP交渉に係る衆参両院の農林水産委員会決議の遵守に向けて、政府や国会議員などへの要請活動をさらに強化していくこととする。

また、EPA・FTA等の国際貿易交渉における重要品目等の関税維持についても強く求めるとともに、農林水産委員会決議の遵守に向けて、政府や国会議員などへの要請活動を強化していくこととする。

以上、決議する。

平成26年4月24日
あさひかわ農業協同組合

JAあさひかわ
5
JAあさひかわ5月号
2014 VOL.74

目次

第12回 総代会	1
基幹支所だより・旭正	3
明日を担う	5
理事会だより	9



議長に選出された、左から水島氏と開氏

総合推進室 TAC 活動状況報告



今回は、神居地区担当 因幡淳一郎の活動状況を報告いたします。

神居地区は神居・西神居・江丹別地区の3地区に大別されます。主要農産物は、神居地区では水稻・野菜（メロン・トマト・キュウリ・レタス・摘み取り春菊・ピーマン・チンゲンサイ）、西神居地区では水稻・野菜（レタス・軟白長ネギ・絹さやエンドウ・サヤインゲン）、果樹（リンゴ・サクラナボ等）、江丹別地区では水稻・野菜（トマト）・ソバです。

私は旧JAカムイへ入組後、営農販売課へ配属、合併後は神居営農センター（旭川青果連出向）・生産資材課・西神居事業支所を経て平成25年に総合推進室へ配属となりました。月に一回定期的に担い手農家を訪問する事により、面談内容については経済事業から信用事業まで幅広くお話をさせていただき、その場で対応可能な事はお答えし、出来ないものは担当部門と連携をとり対応しております。

当地区は3地区共通して、エゾシカを主体とした野生鳥獣による、水稻・果樹・野菜・ソバ・牧草等への被害増加に伴う対策



が急務であり、経済部・行政連携のもと被害対策に取り組んでおります。

内容については、地区組合員におけるくくり農設置の普及拡大により、地区内でのエゾシカの捕獲頭数の拡大・くくり農設置・捕獲活動による追い払い効果を拡大させる下記の内容を重点的に行ってます。

①鳥獣の捕獲等について基礎知識の習得

鳥獣の捕獲等に関する研修会の開催

②くくり農設置者の育成

狩猟免許取得設置技術向上講習会の開催

③くくり農設置の普及拡大

くくり農設置に関わる支援、止め刺しに対するハンター（猟友会旭川支部）との連携

被害が年々拡大の傾向にあること、担い手農家より鳥獣被害の減少が求められていることから、今後におきましても各関係機関連携のもと被害対策の構築に努めてまいります。

※止め刺しとは…一般的に農にかかった鳥獣を、確実に捕まえるために、銃器などを使用して、とどめ刺すこと。



Tとことん、**A**会って、**C**コミュニケーション!!

Your Life Time Partner

平成26年度より『Your Life Time Partner』（あなたの生涯パートナー）をキャッチフレーズに、農業後継者に結婚祝、出産祝。後継者の担い手のお子さんに小学校入学時に文房具セットをプレゼントすることになりました。今回は、6名のお子さんに文房具セットをお届けしました。



2月26日青年部定期総会前に入学祝いをお父さんへ贈呈式



旭正地区
高橋一政さんの
長女 茉希ちゃん
まき



旭正地区
村田典彦さんの
長男 愛斗くん
まなと



旭正地区
花釜和章さんの
長女 実咲ちゃん
みさき



旭正地区
只石勝則さんの
長男 歩夢くん
あゆむ



永山地区
菅原聖志さんの
次男 夢元くん
むねん



北野地区
安田周司さんの
次男 涼くん
りょう

基幹支所だより

第2回

旭正基幹支所

JAあさひかわの各基幹支所を紹介し、第2回目の今号は旭正基幹支所です。



地域の概要

●旭正地域は、旭川の中心部より南東に位置し、現在の本所があります豊岡支所を中心とした商業住宅地域と、東川線沿いにあります旭正支所を中心とした農業地域があり、農業・地域の農協として役割を果たしている地域です。地区農業は、水稻を主体とした土地利用型経営と野菜を主体とした集約型経営とに2極化している地域です。「旭正」の「旭」は東旭川の「旭」と旭日昇天の「旭」に通じ、「正」は大正の「正」であり、正義の「正」、正直の「正」に通じるものとして、将来の発展的光彩を多分に帯びるとして、先人の思いにより旧旭正農業協同組合の「旭正」に決定されたと記されています。

旭正地区正組合員戸数：465戸

旭正地区正組合員数：528名

ご存じですか？

『旭正産業組合存立記念碑』

旭正産業組合存立記念碑は、大正4年に南三次郎他7名の発起人により設立された旧旭正農業協同組合の前進である旭正産業組合の満25周年を迎えて、建立された記念碑です。現在も旭正地区の発展を見守っています。旭正支所の事務所横にありますので、ぜひ見学に来てください。

昭和15年12月15日建立



米粉を使った料理はいかがですか？

旭正地区にある有限会社コントラクターの工場ではJAあさひかわ産米を製粉して、高品質な米粉を提供しています。米粉は、旭川市の学校給食や旭川のご当地グルメ「旭川しょうゆ焼きそば」の麺にも使用されており、菓子メーカーにも提供しています。どうぞご賞味下さい。

代表的な農産物

- 水稻を主体に春秋小麦・大豆他
- 施設野菜主体にパセリ・小松菜・チンゲン菜・みずな・春菊・サニーレタス・リーフレタス他12品目・花卉他

金融・共済事業の特徴・強み

- 農業・一般金融と2支所がそれぞれの地域特性を生かし、「地域農協」として業務を行なっています。

貯金残高：41億（3月） 貸付残高：10.4億（3月） 共済保有：378億（3月）

最近のトピックス

- 旭正構造改善センターに燻製機械が入りました

燻製機械が老朽化により昨年から受付が出来ませんでした。3月1日より稼働いたしましたのでご利用ください。

JAあさひかわ 営農技術情報

平成26年5月号
JAあさひかわ
上川農業改良普及センター

水稲

1 1.5葉期～移植までの育苗管理

- ①温度計は必ず葉先に設置し、苗の伸長にあわせた温度管理をしましょう。
- ②早期異常出穂を防ぐため、育苗後半（2.5葉以降）は25℃以上にならないようにしましょう。
- ③換気とかん水により極端な高・低温、過湿にならない管理をしましょう。
- ④箱施用剤の薬量が規定量より少ないと、抵抗性病害虫発生の原因となります。薬量は、規定量を使用しましょう。

表1 1.5葉期～移植までの育苗管理

中 苗（30日育苗）	1.5葉～3.1葉	3.1葉～移植
成 苗（30～35日育苗）	1.5葉～3.5葉	3.5葉～移植
管 理 目 標	苗の徒長防止	苗質の充実硬化
管 理 要 点	高温、低温、過湿、過乾を避け十分な換気を行う。	管理要点
日 中	18～20℃	かん水を適時にし、高温を避け、外気温にならず。
夜 間	10℃以下にしない	18℃～外気温
基 準	晴天時の早朝に十分かん水する。	
目 安	早朝葉先に水滴の付着がなくなった時に行う。日中、葉の開きが悪いときに行う。	
方 法	早朝、箱の下に浸透するようにかん水する。低温時や午後のかん水は避ける。	

2 移植時の注意点

- ①苗が移植できる葉数になるまでに、ほ場の準備を行い、適期移植に努めましょう。
- ②栽植密度は、表1を参考に必要株数を確保しましょう。
- ③植え付けの深さは1.5～2cmとし、極端な深植えや浅植えにならないよう調節し、浮き苗や欠株にならないように、適切な速度で田植えを行いましょう。
- ④移植早限は、成苗5月12日、中苗5月14日（旭川アメダス）、移植晚限は5月25日とし、適期移植に努めましょう。

3 移植後の管理

- ①低温や風の強い日は、草丈の3/4程度まで入水し保温に努め、天候の良い日は、浅水管理（2～3cm）とし、活着を促進しましょう。
- ②除草剤散布は、使用期間内で早めの散布が効果的です。除草剤処理後は、処理層を保つことが重要です。田面の露出や、水流の強い入水は避けましょう。

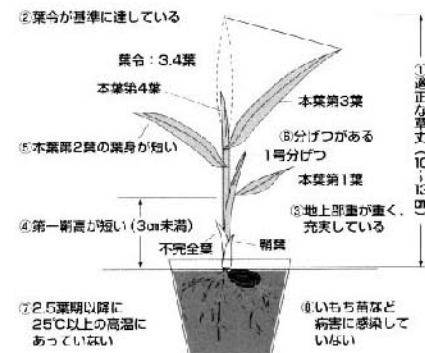


図1 苗質の目安（成苗ポット）

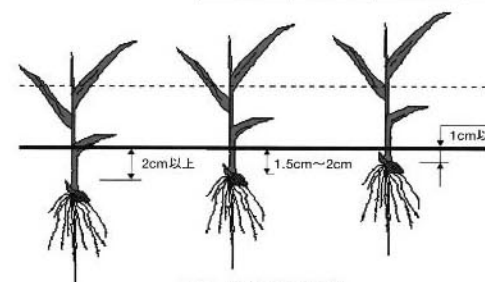


図2 植付深度の目安

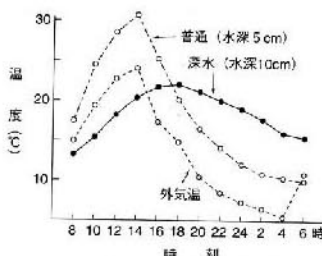


図3 かんがい水の水深と水温（北農試）

表2 育苗追肥基準

育苗型式	1回目	2回目	3回目	粒状NP化成57	液肥：くみあい苗床追肥用液肥
中苗マット	1.5葉	2.5葉	(3.0葉)	7g/箱	箱1枚当り 液量：5ml 水量：500ml (100倍液)
成苗ポット型枠	—	—	—	3.5g/箱	箱1枚当り 液量：2.5ml 水量：500ml (200倍液)

※追肥後は、軽かん水し、葉に付着した肥料を流しましょう。

表3 育苗様式別栽植密度

育苗様式	m ² (坪) 当たり株数、株間	株当たり本数
成 苗	22株/m ² 以上 (73株/坪以上) 株間：14cm以下	2～4本/株
中 苗	25株/m ² 以上 (83株/坪以上) 株間：12cm以下	3～5本/株

※低タンパク米を目指す品種（ゆめぴりか等）は株間13cm以下を目安としましょう。

表4 栽植密度と必要箱枚数

株間 (cm)	株数 (坪)	株数 (坪)	箱枚数 (枚/10a)		
			成苗ポット448穴	成苗ポット490穴	中苗マット18×40回
15	20.2	66.7	45	41	28
14	21.6	71.4	48	44	30
13	23.3	76.9	52	48	32
12	25.3	83.3	56	52	35
11	27.5	90.9	61	56	38

～代かき後は、水が澄むまで、止水とし 泥水やわら等を河川に流出しないようにしましょう～

JAあさひかわ地域農業再生協議会 第2回協議会開催

3月24日（月）、JAあさひかわ本所3階大会議室において、白鳥組合長出席のもと、行政他関係機関及び各地区より選出された生産者が集い、JAあさひかわ地域農業再生協議会が開催された。

平成26年度の水稲における生産数量目標の傾斜配分や、国より配分された産地交付金予算の配分等、慎重な審議が行われた。

平成25年に引き続き実施される経営所得安定対策の産地交付金予算については、前年同様の予算がJAあさひかわ地区に配分されたため、営農方針の継続に鑑み、前年

同様の単価で審議された。生産者への通知は、作付面積の受付案内と共に行われている。



家族構成

母・正子さん

営農形態

水稲

畑作

荒川始さん、十さんは、高校卒業後すぐに就農されました。始さんは現在15年目で、十さんは10年目になられます。5年前に父 保さんが亡くなられ、母 正子さんと兄弟、従業員の4人で経営をしておられます。

経営規模について、就農時には、15haほどでしたが、現在では、水稲約35.0ha、麦約4.5ha、大豆約2.7ha、牧草約5.3haを作付けしております。

就農当初は、知識も少なく農業についてほとんど素人でしたが、お父さんに教えてもらいながら知識を付けると共に、地区内で要望のあった農作業のアルバイトに積極的に参加して、多種多様な勉強をなさっていたそうです。

また、始さんは青年部事業に積極的に参加し、青年部長も務められました。上部団体事業への出席を通して他地域の方との交流が深まり、横の繋がりが広がり、同じ世代の方との悩みや様々な考え方が把握でき良い経験になったそうです。

今後について伺うと、水田面積を50haまで増やし、法人化を行い更なる雇用の拡大を計りたいとおっしゃっていました。その下準備として、農業クラウドシステムの導入を新たに行ったそうです。作業内容をデータ管理し整理する事で、従業員の増加に伴う教育に必要な時間を大幅に短縮可能なうえ、自らの営農を行う際にも効率的な検証を行う事ができるメリットがあるとの事でした。

兄弟二人で協力しあいながら営農を行っていますが、それぞれが農業に真剣に取り組んでいるがゆえに、意見がわかる事もあるとの事。しかし、「美味しい米を作る」という目標は二人とも同じであり、兄弟で営農しているからこそ、今の規模を高い品質を維持してやっていける。それが強みだ、とおっしゃっていました。

明日を担う。

Vol.10

荒川始

さん（写真左）
昭和60年生まれ

さん（写真右）
昭和55年生まれ

旭正地区 共栄三栄

福岡・大阪方面消費地視察研修

2月25日(火)から2月28(金)にかけて、当JA産米の九州での販売先である(株)エフコープ・ライスセンター、当JA産黒大豆『黒い恋人』の販売先である福岡の(株)ナカトラ、(株)森光商店、下関の大西商事(株)、大阪の(株)かね善の計5カ所を、生産者組織の(株)北永・四恩機械利用組合・旭正地区アグリビジネス研究会の会員総勢7名及びホクレン旭川支所農産課本郷課長、当JA職員2名で産地訪問活動を実施した。

(株)エフコープ・ライスセンターでは、岩崎専務取締役から説明を受け、平成25年産米については、平成24年産米の割高感の影響もあり約10%程度売り上げが落ちており、厳しい状況にあるという話があった。

主力販売品種として、北海道産米でさらに397、ななつぼしの取り扱いがあるが、全体に占める割合としては年間

組んでいく必要があると感じさせられた。

黒大豆消費地訪問では、福岡・大阪方面を訪問したが、黒大豆の売り方は量販店での個袋売りが大半を占めおり、一時は健康ブームなどがあり黒大豆の販売が増加している時期もあったが、近年は販売が減少傾向で、個袋の取り扱い数量の減少が顕著に現れており、販売は厳しい現状である。そのため、個袋を250g売りから200gに減らすなどの対応をして販売を行っている。北九州では正月に縁起物として黒豆を煮て食べる風習が昔からあるが、若い世代では食べる習慣があまりないことも要因のようだ。

福岡県ではNHK大河ドラマ黒田官兵衛がブームになっており、それにあやかって黒大豆を販売して行こうと考えている。また販売戦略として、今後は個袋売りだけではなく、お菓子、豆乳、湯葉、納豆、寒天などに黒大豆を使用し



(株)エフコープ・ライスセンター 前庭にて撮影



下関 関門海峡にて撮影

約1万トンの中、九州産が40%、北海道産が20%となっている。さらに397は粘りが少なく、さらさらとして食べやすい特徴が、根強い人気に繋がっている。九州産米も近年は高温に強い『元気つくし』、『夢つくし』などの新品種が登場し、程よい粘りと良食味で売れ筋になってきている。

消費者に売れるお米として最も重要なことは、いつ食べても安定しておいしいお米であることであり、一度食べてまずいと評価されると、消費者には二度と買ってはもらえない。すべてのお米で食味検査を実施しており、点数で評価をしているが、概ね70点が基準となっている。

今回の訪問では、低タンパクで食味が安定しているお米の生産が重要であると、再度確認させられた。また九州産米も新品種登場や産地意識の高まりで、巻き返しを図ってきており、今後とも売れる米づくりにさらに取り

た加工品を製造し、消費を拡大させていきたいと考えている。(株)かね善では、黒豆入りのチョコレートをお土産に頂いたが、味は良く商品としては良いが、値段が高くなってしまい、定着するにはまだ難しいとのことであった。

関西方面の黒大豆の情勢としては、一部の黒大豆は中国から輸入も行っているが、地元産丹波の黒豆の需要も伸び悩んでいるので、北海道産の黒大豆へシフトしようとも考えており、黒い恋人の取り扱いを増やして欲しいとの話があった。

黒大豆の販売環境は、九州方面で特に厳しさを増しているが、黒い恋人は一定の評価を得ており引き合いがあるので、販売先の期待を裏切らない品質の良い製品作りに今後とも努めて行く必要があることを再認識した。

JAあさひかわ融資拡大強化研修会

3月12日(水)、「JAあさひかわ融資拡大強化研修会」が開催された。今年度の当JAは、融資拡大強化年度と位置付けており、外部講師を迎え、年間20回程の研修会が予定されている。管理職・渉外・窓口担当者と階層別に実施される。当日は、渉外担当者を対象とした1日座学研修会で、融資の重要性・今後の推進方法を学んだ。今後は、実際にお客様宅へ訪問する「フィールド研修会」を4月と9月に予定しており、学習した事を十分に生かした実践になる様に、参加者は真剣に外部講師の話を傾聴した。



永山年金友の会 ～ 層雲峡温泉湯治

永山年金友の会(会長・杉山令吉、会員数165名)は、3月4日(火)から7日(金)までの3泊4日の日程にて、第29回目となる定期総会並びに温泉湯治を層雲峡温泉ホテル大雪で参加者45名にて行った。

例年にない厳しい寒さが続き、早い雪解けが待たれるなか、ホテルに向けて出発し、到着後定期総会を行い、平成25年度の報告・決算に始まり、平成26年度の計画・予算と役員改選について審議を行い、提案された議案の全てが承認、採択され、新会長には河口建二氏が選任された。

その後は、温泉湯治の他、ピンゴゲーム大会、映画鑑賞、夜の宴会等にて会員相互との親睦を図り、また初日の夜の宴会時には、来賓として永山地区役員の岡田洋

二理事に祝辞を頂き、和気あいあいとした雰囲気の中で4日間の有意義な時間を過ごし無事帰路に着いた。※多数の皆さんの新規入会をお待ちしております。



神楽年金同友会 ～ 層雲峡温泉湯治

神楽年金同友会(会長・宮串 一、会員数160名)は、3月11日(火)から14日(金)までの3泊4日の日程で、層雲峡観光ホテルにおいて、参加者72名により盛大に温泉湯治を行った。

ホテルの窓から眺める山々は、うっすら雪化粧となり参加者の目を楽しませた。温泉も最高で、夕食も大変おいしいとの評判。温泉で日頃の疲れを癒したり、仲間と娯楽施設を利用しカラオケ・麻雀などを楽しみ、思い出に残るひと時を存分に楽しみながらゆったり過ごした。

恒例の宴会も行われ、参加者の仲も一層深まり、時間を忘れるほど楽しんだ。参加者全員が満足した表情で事故

などもなく、無事帰路に着いた。皆様のご参加をお待ちしております。



第4回 農婚塾を開催！参加男性を募集

応募要項

実施日 1回目：7月21日① 2回目：8月23日②・24日③を予定
参加資格 農業者で独身の男性
※全2回の行程両方に参加出来る方。
募集人数 10名程度
参加費 2万円(予定)
申込先 37-8855(経済部 営農企画課)
申込期日 平成26年5月16日④まで

今年も農家の婚活、農婚塾を開催致します。開催日は7月21日①と8月23日②～24日③を予定。内容については、1回目、2回目通し、農業体験等を通じ交流を深めていただき、2回目には宿泊施設にて宿泊、お酒を飲みながらの交流を行います。参加を希望される方、興味がある方がおりましたら下記、営農企画課まで問い合わせください。

●退職

日付	職 責	氏 名	
3.31	主 査	高橋 幸子	豊岡金融支所融資相談課主査
	係	西山 将樹	経済部米穀農産課係(青果連出向)
3.20	準職員	高橋 義則	江丹別支所支所課係
4.10	調査役	斉藤 郁子	旭正資材センター資材店調査役

●採用(準職員)

3.3	準職員	普天間美奈子	江丹別支所支所課係
4.1	準職員	高畑 茉実	管理部総務課係
	準職員	橋本 健一	金融共済部共済課事故サービスセンター係
	準職員	田端 和智	旭正給油所係
	準職員	久保 崇	神楽給油所係
4.11	準職員	松本 正則	金融共済部共済課事故サービスセンター係

●異動

		新辞令	旧辞令
3.10	考査役	久保田昭則	金融共済部融資・農家経営対策課長
	推進役	門真小夜子	金融共済部金融課長
	調査役	山本 美紀	春光台金融支所長
	係 長	撫養 智明	緑が丘金融支所長
	係	大山亜希子	緑が丘金融支所係長
	準職員	道藤 明美	緑が丘金融支所係
	準職員	鈴木 朋子	北部金融支所貯金共済課係
4.1	推進役	深瀬 久視	旭正資材センター資材店長
	調査役	斉藤 郁子	旭正資材センター資材店調査役
	主 査	中村 伸明	旭正金融支所支所課係長(融資相談担当)
	係	金屋 景二	経済部米穀農産課係
	係	菅井 優香	豊岡金融支所貯金共済課係
	係	平瀬 大也	経済部営農企画課企画外郭組織担当係
	係	佐藤 航紀	経済部購買燃料課係
	係	早坂 明寛	旭正金融支所支所課係(貯金共済担当)
	係	久保 賢太	江丹別支所支所課係
	係	南澤 詩織	豊岡金融支所融資相談課係
	準職員	光澤 成美	経済部米穀農産課係(青果連出向)
			旭正給油所係



経済部審査役
秋元 勝彦

平成23年6月1日から26年3月31日までの2年10ヵ月間にわたり、北海道農政部とJAの人事交流により経済部の所属となり、職員の皆さんと一緒に農協事業の業務に携わることができたことに、組合長をはじめ、役職員、組合員の皆さんにお礼申し上げます。

経済部では主に、営農企画、米穀関係の業務に携わり、農業再生協議会等の対応、経営所得安定対策の推進、上川ライスターミナルでの米集荷業務、西神居地区での鳥獣被害防止対策の推進、第5次中期3ヵ年計画の策定、さらには、理事会、企画会議にも参加させていただき、農協運営や生産現場の実情を知る機会となりました。

私がJAにお世話になっていた期間では、水稻をはじめとした農作物の作柄は、おおむね平年作以上で、米の販売価格も堅調で推移し、農協の販売事業、農家経営が良好であったことは、大変良かったと思っています。

農業・農協を取り巻く状況は、国際的には、TPP交渉が山場を迎えており、国内では、経営所得安定対策、米政策の見直し、農協組織のあり方の検討などが進められるなど、大きく変化しようとしております。

今後、こうした情勢の中で農業分野での規制緩和が進み、国内外での産地間競争が一層激しくなることが想定されます。

JAあさひかわ管内は、道内でも、気象条件に恵まれた有数の農業地帯であり、水稻を主体に畑作物、野菜、花、果樹、そば、畜産などの作目が生産されていますが、今後、激しくなる産地間競争に勝ち抜くためにも、低コストで高品質な農畜産物の安定供給を基本とし、ブランド化、高付加価値化への取り組みを一層推進されることを期待しております。

最後になりますが、私、26年4月1日から北海道農政部に戻り、園芸担当課長として、北海道の野菜、花卉、果樹の生産振興対策を担当することになりました。JAあさひかわでの経験を活かして、取り組んでいきたいと思ひます。

3月24日、日本農業新聞全国版において、JAあさひかわのイメージキャラクター「JAあさひかわ戦隊アグレンジャー」が紹介されました。アグレンジャーは管理部総務課池田調査役の作品ですが、アグレンジャーが選ばれた経過、デザインについての説明等が記事になりました。アグレンジャーの今後の活躍にご期待下さい!!

理事|会|だより|

第1回理事会 平成26年2月27日(木)

- 協議事項
1. 平成25年度 貸付金債権に係る貸倒償却について
 2. 資産査定の結果及び引当について
 3. 減損処理について
 4. 平成25年度税効果積立金の取崩しについて
 5. 平成25年度決算(子会社含む)について
 6. 定款の一部変更及び規約の一部変更について
 7. 総代数の改正について
 8. 任意積立基準の一部変更について
 9. 第12回通常総代会について
 10. 第12回総代会提出議案について
 11. 農産物直売所「あさがお」改装計画について
 12. 平成26年度計画について
 13. 役員賠償責任保険の継続加入と役員負担について
 14. 規程類の一部変更について
 15. 組合員の持分の譲渡について
 16. 旭川市長期債発行に係る見積合わせ参加について

- 報告事項
1. 平成25年度 資産自己査定監査の実施報告について
 2. 内部監査の実施報告について
 3. 芽出し施設導入時期の見直しについて
 4. 平成26年度米生産目標数量について
 5. 平成26年度ゆめびりかの作付配分結果について
 6. 平成25年度肥料・農業に係る大口奨励支払額及び平成26年度肥料値引き施策額について
 7. 信用事業に係る債務者区分別分類結果について
 8. 規程類の一部変更について
 9. 組合員の加入及び脱退の状況について
 10. 組合員懇談会意見に対する回答について
 11. 系統外預金状況について
 12. 人事異動について
 13. その他

監事会・監事監査の報告

監事会 第1回監事会 平成26年2月17日開催 第2回監事会 平成26年2月21日開催
第3回監事会 平成26年3月4日開催 第4回監事会 平成26年3月20日開催

監事監査

1. 資産自己査定監査(仮査定)	平成26年1月28日から2月7日までの間で6日間実施
2. 資産自己査定監査	平成26年2月12日から17日までの間で4日間実施
3. 決算監査	平成26年2月17日から3月3日までの間で8日間実施
4. 緑が丘支所統合に係る監査	平成26年3月7日実施
5. 無通告監査(金融支所)	平成26年3月5日から3月19日までの間で12支所実施
6. 組合員組織会計監査(経済部)	平成26年3月11日(8組織実施)
7. 無通告監査(経済部事業所)	平成26年3月24日から4月3日までの間で11事業所実施

JAあさひかわ
(平成26年3月末実績)

組合員数

正組合員	2,185 名
准組合員	26,852 名
合 計	29,037 名

概要

出資金残高	2,112 百万円
販売取扱高	117 百万円
生産資材供給高	279 百万円
給油所供給高	434 百万円
生活供給高	10 百万円
貯金残高	94,979 百万円
融資残高	15,033 百万円
長期共済保有高	2,007 億円

第2回理事会 平成26年3月20日(木)

- 協議事項
1. 平成25年度資産自己査定監事監査指摘事項に対する回答について
 2. 定款、規程類の一部変更について
 3. 平成26年度計画(子会社含む)について
 4. 第5次農業・農協中期3ヵ年計画について
 5. 第12回通常総代会提出議案について
 6. 第12回通常総代会提出特別決議について
 7. 第12回通常総代会の開催について
 8. 第12回通常総代会議事録の作成者について
 9. 理事に対する資金の貸付について

- 報告事項
1. 平成25年度定期(決算)監事監査の報告について
 2. 緑が丘金融支所統合に係る監査報告について
 3. 平成25年度全国農業協同組合中央会の監査報告及び期末監査の結果並びに事務整備を要する事項の処理顚末について
 4. 内部監査の実施報告について
 5. 理事の順位について
 6. 平成26年2月末事業実績(子会社含む)について
 7. 北野・旭川地区における国営農地再編整備事業の推進状況について
 8. 平成26年度米生産数量目標の配分方針について
 9. 平成26年度産地資金配分スケジュールとJAあさひかわ地域農業再生協議会の開催について
 10. 共済担保貸付にかかる貸出金利の改定について
 11. 平成25年度 農家経営対策組合員の実績報告について
 12. 特定組合員及び農家経営対策組合員等にかかる経営収支の報告について
 13. 消費税増税に伴う信用事業、各種手数料の改定について
 14. 規程類の一部変更について
 15. 「JAバンク基本方針」変更に伴う報告について
 16. 組合員の加入及び脱退の状況について
 17. ゴールデンウィーク期間中の営業時間について
 18. 人事異動について
 19. 総合推進室活動状況報告について
 20. 役員賠償責任保険の保険料変更について
 21. その他

おくやみ

謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。

- | | | |
|------|---------|-----------------------|
| 2/2 | 岩井 敬治さん | 旭川中央地区旭神2農事組合 |
| 2/3 | 坂本美智子さん | 旭川中央地区西御料地8区農事組合 |
| 2/11 | 谷口 幸一さん | 旭正地区千代田中央農事組合(総代) |
| 2/12 | 横田 道子さん | 永山地区永山13区5組農事組合 |
| 2/12 | 八木 言立さん | 神居地区豊里農事組合 |
| 2/13 | 下谷ミツエさん | 旭正地区共栄2農事組合 |
| 2/19 | 竹村 直作さん | 永山地区永山10区2組農事組合 |
| 2/25 | 安友 正子さん | 永山地区その他農事組合 |
| 2/27 | 山崎 良忠さん | 神居地区雨紛1農事組合(元役員:監事6年) |
| 3/8 | 横倉婦美雄さん | 永山地区15区東農事組合 |
| 3/29 | 舟根 直一さん | 永山地区8区1組農事組合 |